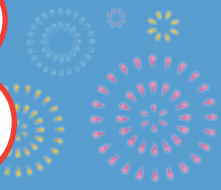




広報 ㊦
No.714
令和5年

いいたて 8





『はやま湖まつり』復活開催！

7月22日、大倉地区のはやま湖畔で、『はやま湖まつり』が開催されました。昨年3年ぶりに花火大会が開催されたのに続き、今年も「はやま湖まつり」として、震災後初の復活を遂げました。大倉行政区・上栢窪行政区（南相馬市）；もりの駅まごころ運営協議会が実行委員会を組織して主催。また、村と県が後援、福島県治水協会の協賛もあり、多くの観客を迎え、賑やかに開催されました。

大倉の花火

大槻博久大倉行政区長が実行委員長としてあいさつ。「山に響くと囲まれているので花火の音が腹に響きます。湖面に映る様も格別です。楽しんでください。」

ドンと音が響く大輪の花火。速射連発するカラフルなスターメイン。湖面に向けて放たれる水中花火。見事な演出に何度も大きな拍手が湧き上がりました。



目次 CONTENTS

- 02 話題「はやま湖まつり」
- 04 特集「飯館村の花卉栽培」
- 10 復興大臣 感謝状贈呈
- 12 学びの広場「たなぼたかい」ほか
- 13 ほけんとふくし「がん検診」ほか
- 14 空から百景「阿部さんのヒマワリ畑」
- 16 お知らせ「交通指導員表彰」ほか
- 17 生涯学習「藍染教室」ほか
- 18 いいたて便り
- 20 話題のパレット
- 23 村からお知らせ
- 24 いいたてイノサル通信
- 25 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 26 いいたてDIARY／村民広報委員コラム
- 27 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 28 ほっとNEWS／方言動画

📷 今月の表紙

震災後初の復活開催となった「はやま湖まつり」が7月22日に大倉地区のはやま湖畔で開かれました。表紙の写真は地元の伝統芸能「大倉の神楽」。笛と太鼓に合わせて、鮮やかな舞が披露されました。神楽のコミカルなシーンでは、子ども達も声を出して笑ったり、演者に声をかけたりして大いに楽しんでいました。「大倉の花火」も打ち上げられた「はやま湖まつり」については、左の記事もご覧ください。

村はイベントや取り組み取材し広報紙やホームページなどに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613までお知らせください。

多彩なアトラクション



1 リフト車乗車体験。2 行政区などが屋台を出店し来場者を歓迎。3 土砂災害模型の実演。他にも真野ダムの見学会などが行われました。



ステージイベント



屋台が並んだ広場では、ステージイベントも開催されました。4 『いいたて軽音サークルAチーム』。ボーカルは地域おこし協力隊の松尾洋輝さん。キーボードは元地域おこし協力隊の松本奈々さん。ドラムはクマさんこと佐藤祐喜さん（下飯樋）。緑に囲まれた会場に、澄んだサウンドを響かせて。5 歌手の藤田征人さんの歌と藤華舞澄美さんの舞踊による見事なステージ。

大倉の神楽



花火の打ち上げ時間が近づき、大勢の来場者が観覧席に集まってきました。オープニングセレモニーに先立ち、大倉民俗芸能保存会が「大倉の神楽」を披露。夕暮れの湖畔で見る神楽は風情も格別。

飯舘村の

花卉栽培

冷涼な気候を生かし
花卉栽培に力を注ぐ

高冷地にあり冷害などの影響を受けやすい本村では、災害の危険を分散するために農業の複合経営を推し進めていて、冷涼な気候を生かした花卉栽培にも力を入れています。

平成12年には村内の花弁の販売総額が1億円を突破。トルコギキョウ、リンドウ、グラジオオラスなどを主力品種に、その後も販売額を伸ばしていました。

産地に成長した矢先の
震災による中断

飯舘村の花弁の品質のよさが市場の評価を獲得し、また、村内の直売所にもたくさんの方が並んでいました。しかし、平成23年、震災による原発事故の影響を受け、村内で農業を継続できない事態となりました。この期間、避難先で苦労を重ねながらそれでも花卉栽培を継続した農家の努力が「いたての花」のプライドを守り続けていました。

避難指示が解除となり、農業の再生を期して、意欲ある農家への補助制度が生まれました。「もう一度村内で」と花卉農家の挑戦が始まりました。制度を活用して新規に参入する人も少しずつ増えています。栽培品種や販路も変化し、飯舘村の花弁栽培は新たなスタートを切っています。

「本気」が大事と伝えています

飯舘村農業委員会
菅野啓一 会長(比曾)



飯舘村は花卉栽培に向く土地柄です。日中と夜の気温差があることで、きれいな色が出る。山あいの気候を生かし、他の産地と重ならない出荷時期を選ぶこともできます。

新規で始める方には、農業の大変さも包み隠さず話して、本気でやらないとうまくはいかないことを伝えています。そして応援もするし、困った時には見に行ったりアドバイスをしたりもします。以前とは違って、生産体制もさまざまになっていますが、新たに産地として成長していけたらいいですね。

道の駅を彩る人気の花売り場

いたて村の道の駅までい館



直売コーナーの花売り場。お盆のセールも人気。

種類が豊富なお花はまでい館のおすすめ商品です。特に春から秋にかけてはたくさんのお花を販売しています。お手頃な価格も魅力で村外から訪れるリピーターさんも多くいらっしゃいます。

道の駅までい館
庄司恵美さん(伊丹沢)



今年も出荷が始まるね。体に気をつけて。勝負の時だから。

高橋日出夫さん
(関根・松塚)

ありがとうございます。気合を入れて収穫します。

小原健太さん
(上飯樋)

(高橋さん)小原さんは勉強しているよね。どうしたら売れるかも研究している。こんなに生育がいいハウスを見ると自然と顔がほころんじゃうね。気持ちがいい。俺ももっと頑張らないうってやる気が出るね。
(小原さん)自分にとっては全てが新しいことなので、探求するのも楽しいです。(高橋さん)小原さんが花を始める時、新しくやる人がいると聞いて、菅野啓一さんの所に集まったんだよね。応援したいから。それで初めに土を耕す手伝いに来たんだけれど、その後には大風がやられてハウスが壊れてしまったんだよね。
(小原さん)振り返れば、ハウスが壊れてしまい、1棟を自分で建てる経験をしたおかげで、補修もできるよになりました。自分の成長が感じられるのもこの仕事のいいところかなと思います。サラリーマンを続けていると、そうした感覚が薄れていってしまうので、来年は、品種を選び直し工夫をして育ててみようと思っています。

小原さんのハウスにて、栽培している品種の生育状況、資材の工夫、出荷の手法など、2人の話題は尽きることがありません。
サラリーマンを辞めて就農し、昨年初めてトルコギキョウを出荷した小原さん。日々湧いてくるさまざまな疑問を携え、日出夫さんの作業小屋を訪ねたこともあったそう。「困った時に相談できる方が近くにいてくださることは大きい。経験的にも精神的にも学ぶことが多いです」と話していました。

トルコギキョウ



飯館村の
花卉栽培

挑戦

第二の人生にチャレンジ 花卉農家になりました

相馬広域消防本部を退職し再任用でさらに1年間働いてから、スターチスの栽培農家になりました。荒れた農地をこのままにはしたくないと役場に相談し、さまざまな制度が活用できる今ならチャレンジがしやすいと言われ、それなら花をやっ

てみよう。消防の仕事が続けることもできたのですが、その後の第二の人生に、やることがないのもよくない。自分ができることを始めてみようと考え、決めました。
去年は初めての出荷。一斉に咲いていくので大変でした。多い時には1日に42箱出しました。今年こそまめに水の管理をしようと思がけています。昨秋は寒さの対策が不十分で育ち上がらなかつたので、温度の管理もきちんとして、秋の出荷も最後までできるようにしたいと思っています。日々勉強ですね。

スターチス
栽培農家が増えて
います。

花卉栽培に挑戦して2年目
須田幸正さん・和枝さん(小宮)



夫婦の協力があつてこそこの挑戦。「同じ汗をかくなればきれいな花がいいなと」。

新たな園芸作物スターチスに挑戦
阿部猛さん・貴美子さん(佐須)



夫婦2人で力を合わせ、まていな仕事をしています。花卉を栽培するハウスにて。

もう一度村で花づくりを スターチスの栽培に挑戦

震災前はトルコギキョウとリンドウを栽培していました。寒暖差のある飯館村の花は光沢があると評判でした。

現在はスターチスなどが中心です。除染後に山砂が客土された農地では、以前のような栽培がうまくいかななくて、新たにスターチスの栽培を始めることにしました。

避難先の福島市でも花を育てていましたが、県と村の事業を活用してハウスが建てられる

と声をかけてもらい、もう一度村でやってみようと思いましたが、ハウスを建てると同時に家も建て直し、現在に至ります。やってよかつたですよ。やっとなければ、すぐに体がなまってしまうでしょう。スターチスは年寄りにも育てやすい花だと思いますね。80歳までは頑張りたいと思っています。

飯館村の 花卉栽培

つなぐ

JAふくしま未来 小菊の栽培を強化しています

相馬地域と県北地域のJAが合併して「JAふくしま未来」となりました。JAの小菊の栽培は、福島地区が全国でも指折りの産地であり、合併を機に全地区で推進しています。そのため栽培や流通の方法がしっかりできていて、導入がしやすく、新規の方でも取り組みやすいと思います。露地栽培ですので施設を建てる必要もなく、初期投資を低く抑えられるのもポイントです。それぞれの力量に合った栽培面積で始め、経験を重ねながら規模



JAふくしま未来飯館営農センター
営農指導係 松下 健さん(草野)

を広げていくことをおすすめしています。

小菊は現在、村内では5軒・約80aで栽培されていて、JAが取りまとめて出荷をしています。つぼみがふくらんだら開花する前に出荷します。値が付きやすいお盆や秋のお彼岸を見据えて、出荷のピークは8月から10月になります。

強い品目があると、産地としての評価も上がり、他の花にも注目が集まりやすくなります。震災後は生産者がそれぞれに頑張ってきたところですが、地域に生産者のまとまりができてくると、張り合いが増していくのではないのでしょうか。

「JAふくしま未来」花卉部会では、小菊を基幹作物として、産地化をしております。興味のある方はぜひ一度ご相談ください。

小菊

齋藤昌良さんの圃場
(深谷地区)



リンドウ

震災前にも生産していたリンドウをつくっています。植えればスクスク育っていた以前のような土の状態にはなかなか戻らなくて思案しながら続けています。福島県の新品種「天の川」も昨年から出荷を始めました。

佐野タケ子さん(前田・八和木)



村内で栽培されている花の一部を紹介し、販売用の花卉を栽培している花卉農家は村全体で約35件(避難先で継続している方を含む)。避難指示解除から6年が経過する中で徐々に増加してきました。初夏に出荷するシャクヤクや、ユーカーリなどの枝物をつくっている方もいて、品目も変化してきています。

トルコギキョウ

ハウスを増棟し、2年目の今年は1万5,000本を定植しました。需要が復活してきていると聞き人気低迷していたイエローも育ててみました。いよいよ出荷の時期。福島市場をメインに東京の市場にも出荷します。

小原健太さん(上飯樋)



いい た て の 花



カラー

3月頃に球根を掘って乾かし植え直します。秋に掘るのが一般的ですが飯館の冬は寒いので土中で冬越しさせています。震災前は黄色のカラーをつくっていました。今は紫とピンクの2色を道の駅に出しています。

佐藤隆芳さん・幹子さん(前田・八和木)



アルストロメリア

地温の調節をして夏も冬も栽培しています。帰村に合わせて、以前から興味があったアルストロメリアに挑戦することを決めました。つくる楽しみがあるから続けられる。家族でできる規模の農業が好きなんです。

高橋日出夫さん(関根・松塚)



ソリダコ

初夏に咲いた株を切り戻して、秋の収穫を目指しているところ。飯館の冬も越せることが分かり、成育は順調。添え花なので単価は安いのですが、一度植えたら10年は収穫できる花なのでつくりやすいです。

伊集院博さん(草野)



小菊

1年以上の研修を経て始めました。最初は工程に追いつけられましたが現在では年に数万本を出荷できるように。畑は数年おきに移動し連作障害を防いでいます。生産者は見えない所にも手をかけて頑張っていますよ。

齋藤昌良さん(深谷)



スターチス

会社勤めをしていましたが、少し早めに第二の人生を始めようと夫婦で相談して花卉農家になりました。秋から冬の値が付く時期に出荷できるよう温度管理を大事にして頑張りたいですね。

菅野 守さん・アーリーンさん(関根・松塚)



カスミソウ

他の花を引き立ててくれる花ですが、私は主役だと思ってカスミソウを育てています。だってこんなにきれいなんだもの。道の駅には花束も出しています。花をいじっている時が幸せ。かわいくて仕方ないのです。

菅野徳子さん(関根・松塚)



ヒマワリ

露地のヒマワリ栽培は3年目。契約栽培で今年は1万本を出荷する予定です。花卉栽培はやってみなければ分からないことが多いですが、種が芽吹いて成長していくのを見ていくところに楽しさがあります。

花井由貴さん(大久保・外内)



復興大臣感謝状贈呈

復興庁は、東日本大震災からの復興に向けて陣頭指揮を執った福島・宮城・岩手の3県の元市町村長20人、被災地域で産業復興や地域課題解決に向けて取り組む事業者30団体、震災の記憶と教訓の伝承を続ける語り部67人に大臣感謝状を贈呈すると発表しました。

この感謝状贈呈に、本村から、元首長の一人として菅野典雄前村長(佐須)、事業者として「刃物の館やすらぎ工房」、語り部として菅野クニさん(宮内)が選ばれました。発表を受け、それぞれの足跡を振り返りながら、お気持ちを感じていました。

経験と学びを次世代へ

感謝状の贈呈は、思ってもいなかったことで、驚いたと同時にうれしく思いました。復興への取り組みに対していただいたという事で、常に前を向き頑張っていたいただいた村民、役員職員、国や県や各自自治体からの応援職員、また支援をしてくださった方々、皆さんを代表していただいたものだと思います。

復興については、大変なことももちろんいろいろありましたが、普通では経験できないことを経験したと思っています。それは心にしっかりとしまっておきたい。この復興に携わったことで、新たな思いも深まりました。

特にこの原発事故に対しては、百人百様の考え方があり、どれもが正しいという中で、決断していかなければなりません。多様な考えに折り合いをつけ前に進む、加害者・被害者の関係を一旦

置いて村や村民にとって実を取っていく考え方、村民も職員も、共に考えてくれました。このような事故は二度とおこってほしくないし、我々のような経験は誰にもしてほしくない。そのためには、ここから何を学び、次の世代にバトンタッチしていくかが一番大事だと思います。一言で言えば「成長社会から成熟社会へ」「お金の世界から生命の世界、心の世界へ」ということになるとかと思っています。



復興大臣感謝状贈呈
被災3県の元自治体の長として
菅野典雄さん(佐須)

復興大臣感謝状贈呈 被災地域の事業者として

刃物の館やすらぎ工房
二瓶信男代表(福島市)
二瓶貴大さん(大倉)



飯館から刃物文化を発信

(貴大さんのお話)飯館工場は今年の9月で開所から丸4年になります。種類にもよりますが月に1000から2000本の包丁を生産し、メンテナンスもしています。

感謝状のお話をいただき、私達は被災の当事者ではなく、まだ何も復興に貢献できていないとお伝えしましたが、それでもおっしゃっていただいたので、父の功績としてお受けすることにしました。やっていくことに変わりはありませんが、ふさわしい仕事をしていかなければと考えています。飯館はよい所で、妻も私も村の皆さんに助けられています。

これからは雇用を生み出したり刃物でイベントを開いたりもしていきたいと考えています。村に来てもらう機会をつくりながら、刃物文化を伝えたい。研究家の方達が中心となっていて、この飯館工場の敷地で古代の「たたら製鉄」を再現してみようという構想も進んでいます。

(信男代表のお話)俺ではないです。若い人達が一生懸命やっています。飯館村に来た時、私らが一生懸命やることで村にいい影響が生まれればと話しましたが、少しずつでもそうならいいから、本当にうれしい。これからはもともとと頑張りたい。私は、小さい頃から「まで(＝までい)にやれ」と教えられて仕事をしてきました。そのことにも、村との深いつながりを感じています。

科学的なデータで語る

全村避難となり、仮設住宅の管理人をしていた友人が、訪問者に向けて語り部を始めたことがきっかけでした。依頼があれば、私も村民として協力をしよう、と、県が主催する語り部の研修を受け、学び始めました。情報の共有は大切で、そのためには人材を育成することも必要です。さらには語る人のネットワークも大事だと考えています。

原発事故の影響について、震災後、世の中は両極端の考えを引きずっていました。避難指示が解除になっても噛み合わない部分がありました。私は語り部の活動を通して、感情的にはなく、今の飯館の情報を科学的に伝えてきました。震災直後から、我が家の作物や植物の線量を測り続けてきた経験を踏まえて、「採って測って考える」ことの大切さを伝えていきます。実際に測ってみてこそ分かることがあります。

私は保健師です。平成24年からは福島県立医科大学で健康調査の仕事をしていきますが、医療職において「データを測ること」は基本です。科学的な事実を元にどう考えるか、知識が生活を豊かにしてくれることを、特に若い人に伝えていきたいと思っています。思い込みではなく、実際のデータを理解することで、総合的な判断ができるようになっていくと考えています。



復興大臣感謝状贈呈
震災伝承の語り部として
菅野クニさん(宮内)

本田先生に聴く

うた
こころとからだといのちの詩

第7回 がん検診の勧め

いいたてクリニック 本田 徹 先生

今や日本人の半分がかかり、死因のトップにもなっているがん。この病気をどう予防し、早期に発見し、適切な治療に結びつけるかは、国民的な課題と言えます。がんの誘因となることが証明されている、喫煙や過度の飲酒などの生活習慣の見直し、緑黄野菜や乳製品の十分な摂取などが、消化器系のがんの一次予防として役立つことは、広く知られるようになっていきます。



前に書かせていただきましたが、長野県の佐久病院が八千穂村と協力して昭和34年頃開始され、すぐれた成果をあげた全村民健康管理運動でも、重視された目標の一つは、「手遅れのがんを減らすこと」でした。のちに確立された、胃のバリウム検査（現在では、内視鏡検査が主流となりつつありますが）や、子宮粘膜の細胞診などを検診項目に導入し、手遅れのがんを減らした結果、長野県はがんによる死亡者数の減少や医療費の削減、そして健康寿命の伸長に成功したのでした。

特に関心するのは、浸潤と云って、病変が深く進行し、周りの臓器に伝わっていくことや、遠くの内臓などに血管やリンパ管を通して転移を起こしてしまうことで、治療が困難になるためです。

特に日本人男女の多くがかかり、適切な検診方法が確立している、肺がん、胃がん、大腸がん、女性の子宮がん、乳がんについては、定期的な検診が勧められます。前立腺がんについては、希望すれば血液によるスクリーニング検査は可能です。村での検診の機会を、ぜひ皆さまにも利用していただきたいと思えます。

■ がん検診の項目

問 健康福祉課健康係 ☎0244-42-1637

検診項目	検査内容・方法等	対象
肺がん	胸部レントゲン撮影（65歳以上は結核検診を兼ねています）	40歳以上
大腸がん	2日間の採便による潜血反応検査	40歳以上
胃がん	バリウムによる胃の透視	40歳～74歳まで
	胃カメラ（内視鏡検査）※医療機関のみ	40歳～79歳まで
前立腺がん	血液検査	50歳～70歳の男性
子宮がん（頸部）	内診、頸部検査（子宮体がんは医師が必要と判断した方のみ）	20歳以上の偶数歳女性 ※前年度未受診の奇数歳女性も受診可
乳がん	マンモグラフィ検査などです	40歳以上の偶数歳女性 ※前年度未受診の奇数歳女性も受診可

- 村の集団接種の日程はお知らせ版に掲載しています。
- 詳細は6月末に郵送で配付した「総合健康診査のお知らせ」をご確認ください。
- 症状がある方は検診を待たずに医療機関を受診してください。

夜空の星々に思いを馳せて
までいの里のこども園で『たなばたかい』

3歳以上児の「たなばたかい」



「大好きなお友達と仲良く遊びたい」「縄跳びを頑張りたい」など短冊に書いた願い事を発表しました。

7月7日、までいの里のこども園で『たなばたかい』が開かれました。3歳以上の園児は、浴衣や甚平に着替え、星の冠をかぶってホールに集まりました。三品勝彦園長先生から「昔の人は機織りが上手になるようお願いをしたそうです。それが今の七夕まつりにつながっているのですよ」とお話を聞き、唱歌「たなばたさま」を歌ったり、かわいい音頭を踊ったりして会を楽しみました。また、ブラックシアターで七夕伝説が上演されると、園児達は星々の世界に思いを馳せて見入っていました。

3歳未満児の「たなばたかい」



3歳未満の子ども達は、もう一つのホールで、小さな『たなばたかい』を楽しみました。赤ちゃん達も頭に星の冠を着け、皆かわいらしい七夕祭りの装いです。こちらでもブラックシアターで七夕伝説が上演され、先生が分かりやすいやさしい言葉で物語を伝えていました。上演が終わると、子ども達は小さな手で一生懸命拍手をしました。さらには一人ひとりの七夕飾りを見たり、元気にダンスをしたり、ゆったり穏やかな雰囲気の中で、七夕の行事に親しんでいました。

0歳児から2歳児クラスの子ども達も、発達段階に応じて集会を楽しんでいました。素敵な時間でしたね。

いきいきわくわく学びの旅
ふるさつを見つめる事前学習



7月8日の研修の様子。北海道で交流する皆さんに飯館村を紹介するための準備を進めています。

8月7日から10日にかけて『いきいきわくわく学びの旅』を実施します。昨年に続く事業で、いいたて希望の里学園に通学する5・6年生のうち希望者14人が参加します。旅の目的地は北海道。菅野義樹さん（比曾）が栗山町で営む『菅野牧園』では、畜産について学ぶと同時に、震災から現在に至るお話を聴かせていただきます。また、現地の子ども達と交流したり、北海道の大自然に触れたり、農業経営を学んだりもしてきます。7月8日・29日には、参加児童が交流センター「ふれ愛館」で、事前研修を行いました。

阿部勝男さん(佐須)は自宅を囲む約160aの農地を毎年ていねいに手入れして、一面にヒマワリを咲かせています。今年は遅霜や降雨の影響を受け、きちんと育つか心配をしたそうですが、7月上旬、無事に満開を迎えました。阿部さんはこの花景色を長い期間楽しんでもらおうと、ブロックごとに順次満開を迎えるよう時期をずらして栽培しています。

空から
百景

阿部さんのヒマワリ畑

恒例のスポーツ交流会に笑顔が集う グラウンド・ゴルフで交流

7月15日、いいたてスポーツ公園の屋内コートで、『第12回村民グラウンド・ゴルフスポーツ交流会』が開催されました。この大会は、全村避難でバラバラになった村民の交流の機会として、震災翌年の平成24年から開催されているもので、今回は第20回飯館村老人クラブ連合会グラウンド・ゴルフ大会を兼ねての開催です。約50人の参加者が、プレーを通して和気あいあいと交流しました。男子の部は高倉辰彦さん(前田)、女子の部は丹野マサイさん(飯樋町)が熱戦を制して優勝しました。



笑顔が輝いたスポーツ交流会。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。試合後の記念撮影。

科学の魔法にびっくり! 五十嵐美樹さんサイエンスショー

テレビなどで活躍する“サイエンス・エンターテイナー”五十嵐美樹さんのショーが、7月17日、交流センター「ふれ愛館」で開かれました。ショーでは、ダンスを踊りながら生クリームをバターに変える実験や、コイルと磁石で電気を起こす実験などが次々と披露され、ちびっ子たちが目を丸くして見入っていました。参加した40人余りのご家族からは「またぜひ見たい」「夏休みの自由研究の参考になった」などの声があがっていました。



参加者と気さくに交流する五十嵐美樹先生。ショーを盛り上げた「サイエンス」のポーズで記念撮影。



藍の季節に生葉を使って 生涯学習講座「藍染教室」

7月21日、交流センター「ふれ愛館」で生涯学習講座「藍染教室」を開催しました。講師は高木久子さん(大倉)です。高木さんが自宅で栽培する藍の生葉を使い、葉をもんで染液をつくる作業も体験。絹や綿のストール、Tシャツなどに絞りの模様をつけて染色しました。参加した皆さんは、染めてから水洗いする時の色の変化や、縛った部分をほどくと現われる絞りの模様を見せ合い、「面白いね」と笑顔を交わしながら作品づくりを楽しんでいました。



夏休み中の小学生も参加し多世代で活動。抗菌効果など藍の持つ効果についても教えていただきました。

佐藤昇さん(草野)が、福島県交通安全専門員連絡協議会から表彰を受け、7月18日に村役場で杉岡村長に報告を行いました。佐藤さんは平成16年から、19年間の長きにわたり飯館村交通安全指導員として活動。交通安全教育活動に努め、地域の安全確保に貢献したことが認められました。交通安全指導員は、交通事故防止に向けた街頭指導や交通安全教室の実施などの活動を行っています。「コツコツやってきただけです」と話す佐藤さん。これからも村の安全・村民の安全を守るため、活動を続けます。



交通安全指導員として19年
佐藤昇さん 県から表彰

地域住民の防犯思想の高揚に努めた長期の活動が評価され、飯館村防犯指導隊が、南相馬地区防犯協会連合会及び南相馬警察署から表彰されました。表彰式は7月7日に南相馬市で行われ、同日、渡邊富士男隊長(飯樋町)が隊を代表して村役場で報告を行いました。震災前から活動を続ける同隊は、避難指示解除後も率先して地域の安全活動を行っています。「活動が防犯の波及効果になれば」と渡邊隊長。今後も、公共施設での防犯キャンペーンなどを通して啓蒙活動に努めます。



長年の防犯活動に表彰状
飯館村防犯指導隊

狩猟免許を取得しませんか? 狩猟免許取得に係る経費を補助します

村では、有害鳥獣対策の担い手となる新規狩猟者に、狩猟免許取得に係る経費の一部を補助します。

■補助対象者(次の①②両方に該当する方)

- ① 村内に住所があり、狩猟免許取得後、福島県猟友会飯館支部に加入する方。
- ② 補助金の交付申請年度及び当該申請年度から過去2年度の間に初めて狩猟免許を取得した方。

■補助対象経費

- ① 新規狩猟免許取得支援事業…申請手数料等免許取得に係る費用。
- ② 若手狩猟者確保事業…免許取得時の年齢が50歳未満の方の銃器等取得費用。
- ③ 第一種銃猟免許新規取得者支援事業…第一種銃猟免許を取得するための射撃教習等の費用。

詳しくは右記までお問い合わせください。 問 産業振興課農政第二係 ☎0244-42-1625

「イタネちゃんお知らせアプリ」サービス終了について

平成29年度よりご利用いただいていた「イタネちゃんお知らせアプリ」のサービスを、令和5年9月30日に終了します。

「イタネちゃんお知らせアプリ」に替わる村からの情報発信サービスを令和5年10月より開始する予定です。また、アプリ交流会については、スマホ教室として継続する予定です。情報発信サービス及びスマホ教室の詳細については、決まり次第お知らせします。

問 村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613



心豊かな成長を願い「赤ちゃん訪問」時に木のおもちゃと絵本のプレゼントも行っています。



母親の八巻和枝さんと乃ノ夏ちゃん。健やかな成長と子育てを、みんなで応援します。元気に大きくなあれ。

『赤ちゃん誕生祝金』 第1号は八巻乃ノ夏ちゃん

村の宝である子ども達の健やかな成長を願い、村は令和5年度から、新たな子ども・子育て事業を展開しています。その一つ『赤ちゃん誕生祝金』贈呈の第1号となったのは、6月2日に誕生した八巻徳一さん(草野)の長女・乃ノ夏ちゃんでした。『赤ちゃん誕生祝金』は村の単独事業で、令和5年4月1日以降に村に出生届を出した村に住所を有する養育者が対象で、保健師による「赤ちゃん訪問」後に申請をしていただき、お祝いの20万円を贈るものです。

あぶくまロマンチック街道 5年間の事業プランを策定

国道399号線が通る飯館村・葛尾村・浪江町・川内村・田村市の5市町村が、官民一体で沿線の地域活性化に取り組む『国道399号あぶくまロマンチック街道沿線自治体連絡協議会』。各市町村の首長など協議会のメンバーが、6月27日、川内村の「いわなの郷体験交流館」に集い、今年度から5年間にわたる事業計画を取りまとめました。計画には、街道沿いをまるっと紹介するガイドブックの作成、合同販売会の開催など、各地域の魅力を結集し高め合う事業が盛り込まれています。



各市町村の首長が意見を交換。各地の郷土料理を詰め合わせた特製ランチも登場しました。

『昆虫の聖地協議会』が発足 里山の魅力を発信します

飯館村を含む県内外の15市町村が加盟して『昆虫の聖地協議会』が発足しました。この協議会では、加盟市町村が、多様な昆虫が生息している地域性を生かし、里山の環境を守りながら、連携して観光振興などに取り組んでいきます。発足式は、7月8日に、田村市常葉町の「文化の館ときわ」で行われ、会長には田村市の白石高司市長、副会長には葛尾村の篠木弘村長が選任されました。豊かな自然を誇る本村も、協議会の一員として、里山の魅力発信に参画していきます。

飯館村森林組合が伐採式 新事業の目標達成を祈願

飯館村森林組合は、蕨平地区に飯館バイオパートナーズ株式会社が整備する木質バイオマス発電施設の材となる木の伐採を、7月から開始しました。この新事業に向けた安全祈願祭と伐採式は、6月30日に行われ、佐藤長平組合長(宮内)が「森の恵みに感謝して事業に取り組み、カーボンニュートラルなど持続可能な社会の実現にも貢献したい」とあいさつ。杉岡村長は「福島森林再生事業などを活用し未来につながる森林の再生を進め、村の経済活性化にもつなげたい」と事業を展望しました。



伐採の様子。森林組合はこの新事業で協力企業と共に年間約100haの森林の伐採を進めています。



各自治体の代表と関係者、竹谷とし子復興副大臣が来賓が出席した発足式であいさつする杉岡村長。

更生保護女性会と保護司会が 朝のあいさつ運動を実施

7月11日、いいたて希望の里学園で、飯館村更生保護女性会(杉浦正子会長/伊丹沢)と飯館村保護司会(石井せん会長/白石)の皆さんが、あいさつ運動を行いました。この日は両会から14人の方が参加し、登校してくる子ども達に笑顔で「おはようございます」「いってらっしゃい」と声をかけていました。子ども達も大きな声で、「おはようございます」とあいさつを返していました。このあいさつ運動は毎年実施しており、地域の方と子ども達が顔を合わせる貴重な機会となっています。

『社会を明るくする運動』 立ち直りを支える地域の力

7月3日、飯館村保護司会から3人の保護司が来庁し、『第73回「社会を明るくする運動」内閣総理大臣メッセージ伝達式』が行われました。この運動は、すべての国民が犯罪や非行の防止と更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全・安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動です。式では石井会長が、「生きづらさに寄り添い、互いに支え合うコミュニティを築くことこそが、安全で安心な社会の実現につながる」と読み上げ、メッセージ状を手渡しました。



左から、多田宏さん(宮内)、石井せん会長(白石)、杉岡村長、長正増夫さん(大久保・外内)。



学園の正面玄関前で朝のあいさつを交わす、保護司会・更生保護女性会の皆さんと子ども達。



古居監督と関係者、飯館村婦人会の皆さん。杉岡村長と記念撮影。

映画「べごやの母ちゃん」村内上映会

映画『飯館村 べごやの母ちゃん-それぞれの選択』の上映会が、7月9日、交流センター「ふれ愛館」で行われました。震災後の飯館村で取材を続けてきた映画監督・古居みずえさんの作品で、畜産や酪農に携わってきた3人の女性、中島信子さん(比叡)、原田公子さん(飯樋町)、長谷川花子さん(前田)の震災体験と現在に至る道のりを丹念に綴ったドキュメンタリー映画です。多くの村民が来場し、時に笑い時に涙を流して観賞しました。

永井川カフェ 村内施設の見学ツアー

7月11日、『永井川カフェ』(世話人・佐藤俊雄さん/草野)が村内で施設見学のツアーを実施。22人が参加しました。前田地区の『東北大学惑星圏飯館観測所』(右写真)では「山の中に立派な施設があってびっくり」と、深谷地区の「図書館倉庫」(左写真)では「施設の丁寧な説明で何をしている所かが分かりました」といった感想が聞かれたそうです。



「施設の丁寧な説明で何をしている所かが分かりました」といった感想が聞かれたそうです。



写真は今年2月に開催された芸能発表会のステージ。優雅で凛とした演舞を披露する伏見さん。

太極拳サークルから全国大会へ

伏見美保さん(草野)が、7月14日から16日に東京都で開催された『第40回全日本武術太極拳選手権大会』剣の部に、県の代表として出場しました。全国大会は2度目の出場です。伏見さんは現在太極拳4段(最高位が5段)で指導員の資格も取得し、所属する『いいたて太極拳サークル』では指導役も担っています。「これからも健康体操として皆さんと続けたいです。個人としては少しずつ目標を伸ばし大会や資格取得にも挑戦できればと思っています」。

飯樋四区防犯啓発キャンペーン

7月21日、飯樋町行政区、前田・八和木行政区、大久保・外内行政区、上飯樋行政区の4地区が合同で、『飯樋四区防犯啓発キャンペーン』を開催しました。地区をまたいだ「飯樋四区連絡協議会」において防犯活動の必要性を再認識し、地区内の防犯意識の向上を図ることを目的に実施され、この日は各地区から約40人の住民が参加しました。また、同4地区内に合計80本の防犯の職を新たに設置し、防犯活動のPRを行いました。



草野行政区サロンで鳥獣対策講座

6月20日、草野行政区が、草野集会所で開いたサロンで、鳥獣対策講座を実施しました。講師には福島県避難地域鳥獣対策支援員の鉄谷龍之さんらを招き、村産業振興課農政第二係の職員も同席しました。サルの被害については、参加者同士が目撃した場所などを教え合い、地区内の情報を共有しながら鳥獣被害の対策を学びました。講師の鉄谷さんは広報紙に「イノサル通信」を執筆中。今号はP24に掲載しています。ぜひご覧ください。



KumaSoundHouseの挑戦

6月25日、交流センター「ふれ愛館」で、『いいたてロックフェスティバル』が開催されました。このフェスを企画したクマさんこと佐藤祐喜さん(上飯樋)の音楽仲間を中心に5つのバンドが出演。ホールを熱い音楽で満たしました。クマさんが自宅に構える音楽スタジオには、村内外の音楽仲間が集い演奏を楽しんでいます。「音楽のおかげですぐ仲良くなれます」とクマさん。その一角に誰もが気軽に立ち寄れるミュージックカフェをつくりたいと次の構想を描いています。



赤石澤正信さん 彫刻・陶芸展

7月1日から31日、「片岡鶴太郎美術館」(福島市)で、赤石澤正信さん(上飯樋)の個展『手作り作品展』が開かれました。赤石澤さんは長年木彫を続けていて美術展で入賞する腕前。また、避難先で学び始めた陶芸でも本格的な作品を制作しています。今回は美術仲間の勧めで、初めて個展を開くことに。「気恥ずかしさがありましたが、いろいろな出会いがあり、挑戦してよかったと思っています」。会期中何人もの方が作品を気に入り購入されていました。



いいたてホームの楽しい七夕飾り

七夕を前に、特別養護老人ホーム「いいたてホーム」のホールに、カラフルな七夕飾りが登場しました。6つのユニットに加えて、厨房チームと事務所チームもそれぞれ、趣向を凝らして制作した七夕飾りです。中には独創的なデザインあり、人気アニメのオマージュありの個性輝くラインアップ。厨房チームは何と「そうめん」をイメージした吹き流しで食欲を刺激…! 入居さんが楽しく観賞し、人気投票も行いました。



環境・復興・農水大臣が来村 村の現状を視察し意見を交わす

6月下旬から7月初旬にかけて、3人の大臣が村を訪れ、現状を視察した他、村や村民と意見を交わしました。

西村明宏環境大臣は、6月26日に来村。田舎レストランLaKasse(ラカッセ)で杉岡村長らと会食をした後、長泥地区で実証栽培が行われている花卉ハウスや水田を視察し、長泥コミュニティーセンターで地区の住民と意見を交わしました。

渡辺博道復興大臣は、6月29日に来村し、長泥コミュニティーセンター、長泥曲田公園を視察し、続いて訪れた実証栽培の花卉ハウスで、栽培に携わる住民の代表と対話しました。ハウスの中はマリーゴールドとカスミソウが花盛りで、それらを使った花束が住民代表から渡辺大臣に手渡されました。

野村哲郎農林水産大臣は7月4日に来村。和牛繁殖を行う佐藤豊洋さん(飯樋町)の畜舎を視察し、その後、上飯樋集会所で農事組合法人13区営農組合と意見交換を行いました。

村は3大臣にそれぞれ村の現状を伝え、要望書を提出しています。



要望書を手渡す杉岡村長(右から2人目)と西村環境大臣(中央)。



実証栽培で育てる長泥の花を住民から贈られる渡辺復興大臣(中央)。



(前列右から)杉岡村長、野村農林水産大臣、13区営農組合の細川代表。

上飯樋MUSICフェス

「13区を考える会」が上飯樋集会所で開いた音楽フェス。音楽スタジオを構える佐藤祐喜さん(通称クマさん)が企画の中心となり4年連続で開催しています。区の皆さんや帰省したご家族が集まり、さまざまなジャンルの音楽を、生演奏で楽しみました。今年は皆から集めた太鼓で、子ども達も演奏に参加。フィナーレでは「上を向いて歩こう」「村民歌」を全員で歌いました。子ども達にはカブトムシや水風船のお土産もあり、会場にはやさしい笑顔があふれていました。



道の駅にて杉岡村長と交流。左はこの日採集された個体の一つ。



「五郎沢」で冬虫夏草の調査会

7月23日、『日本冬虫夏草の会』が村内で『虫草祭』を開催しました。この催しは、毎年全国各地から研究者や愛好家が集い、冬虫夏草の調査や採集を行うものです。コロナ禍で休止をしていましたが、今年は全国3か所に分散し、日程を短縮して開催しました。今回訪れた真野川溪谷の通称「五郎沢」は、新種も発見されている有名な生息地で、約50人が観察や採集を行いました。多くの種類の冬虫夏草が見つかり、充実した調査となったそうです。

7月の村の動きと主なできごと

- 29日・いきいきわくわく学びの旅事前研修・結団式(交流センター「ふれ愛館」)
- 27日・「日本で最も美しい村」連合東北ブロック会議総会(青森県佐井村)
- 26日・飯樋村議会第5回臨時会(議場)
- 24日・第2回いたて村文化祭実行委員会(交流センター「ふれ愛館」)
- 23日・第2回飯樋村長杯パークゴルフ大会(いたてパークゴルフ場)
- 22・23・29・30日・プール開放(いたて希望の里学園)
- 22日・「日本で最も美しい村」連合福島県内加盟町村合同物産展(昭和村)
- 21日・生涯学習事業「藍染教室」(交流センター「ふれ愛館」)
- 20日・農業委員会定例会(村役場)
- 17日・自主文化事業「五十嵐美樹スーパースイーツショー」(交流センター「ふれ愛館」)
- 16日・比曾地区農地中間管理事業説明会(比曾集会所)
- 15日・村民グラウンド・ゴルフスポーツ交流会(いたてパークゴルフ場)
- 14日・乳幼児健診(いちばん館)
- 12日・福島県立医科大学保健科学部 実習(いたてホーム)
- 9日・佐須前乗地区営園場整備説明会(佐須公民館)
- 8日・昆虫の聖地協議会設立総会(田村市・文化の館ときわ)
- 7日・飯樋村防犯指導隊 表彰(南相馬市・労働福祉会館)
- 5日・第2回学校運営協議会(いたて希望の里学園)
- 4日・野村哲郎農林水産大臣 来村(飯樋地区)
- 3日・「社会を明るくする運動」メッセージ伝達式(村役場)
- 2日・大久保・外内地区農地中間管理事業説明会(大久保・外内集会所)
- 21日・佐須前乗地区地域計画説明会(佐須公民館)
- 19日・いきいきわくわく学びの旅事前研修・保護者説明会(交流センター「ふれ愛館」)
- 18日・飯樋四区連絡協議会防犯啓発キャンペーン(飯樋地区)
- 17日・はやま湖まつり(大倉地区・はやま湖畔)
- 16日・第2回飯樋村長杯パークゴルフ大会(いたてパークゴルフ場)
- 15日・飯樋村議会第5回臨時会(議場)
- 14日・福島県立医科大学保健科学部 実習(いたてホーム)
- 13日・昆虫の聖地協議会設立総会(田村市・文化の館ときわ)
- 12日・飯樋村防犯指導隊 表彰(南相馬市・労働福祉会館)
- 11日・第2回学校運営協議会(いたて希望の里学園)
- 10日・野村哲郎農林水産大臣 来村(飯樋地区)
- 9日・「社会を明るくする運動」メッセージ伝達式(村役場)
- 8日・大久保・外内地区農地中間管理事業説明会(大久保・外内集会所)
- 7日・佐須前乗地区地域計画説明会(佐須公民館)
- 6日・いきいきわくわく学びの旅事前研修・保護者説明会(交流センター「ふれ愛館」)
- 5日・飯樋四区連絡協議会防犯啓発キャンペーン(飯樋地区)
- 4日・はやま湖まつり(大倉地区・はやま湖畔)
- 3日・第2回飯樋村長杯パークゴルフ大会(いたてパークゴルフ場)
- 2日・飯樋村議会第5回臨時会(議場)
- 1日・福島県立医科大学保健科学部 実習(いたてホーム)

飯樋村長杯パークゴルフ大会

7月23日、いたてパークゴルフ場で『第2回飯樋村長杯パークゴルフ大会』を開催しました。青空のもと59人がプレーを楽しみ、男子の部は高橋則雄さん(二枚橋・須萱)、女子の部は佐藤千代美さん(村学童保育指導員)が優勝しました。また、比曾行政区出身の中島真一さん(福島市)には感謝状が贈られました。中島さんは避難した村民を気遣い、自身が整備するパークゴルフ場を利用できるよう手配し、地区との交流にもご尽力をいただきました。



村長杯は高橋さん(左)と佐藤さんの手に。右の円内は感謝状を贈られた中島さん。

「きこり」に咲いた見事なヤマユリ

7月下旬、宿泊体験館きこりの前庭を、ヤマユリの花が彩っていました。村の花として親しまれているヤマユリですが、きこりのヤマユリも自生しているものだそうです。震災後、ユリの球根を好物とするイノシシに荒らされ、一時この場所では見かけなくなりましたが、再び咲くようになり、今年は非常に見事に咲いているとのこと。きこりは四季を通じて、花と緑に心癒される施設です。日帰り入浴や岩盤浴、研修や宿泊などに広く利用されています。



4
いいたて
イノサル通信

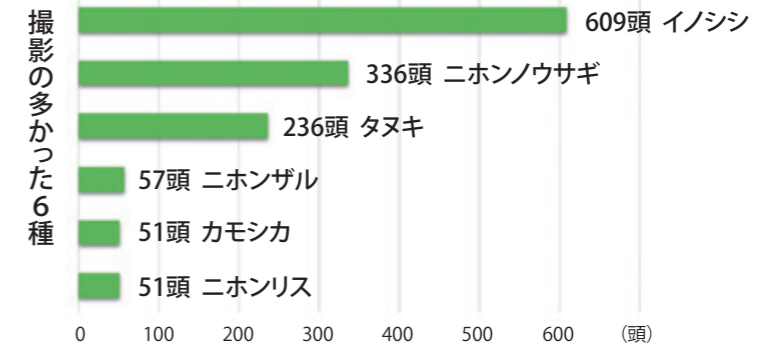
野生動物を撮る

鳥獣被害対策を効果的に行うためには、被害を出す動物について調べる必要があります。その手法の一つとして、センサーカメラ調査と呼ばれるものがあります。人が動物を直接観察することは大変ですし、人がいることで隠れてしまうかもしれません。できるだけ自然な状態を調べるために、動物を感知して自動で撮影してくれるカメラを使用します。このカメラのおかげで、その地域にどんな動物が多いか、どの時期に出没が増えるかなど、いろいろなことが分かります。

現在、私達は伊丹沢地区が行う鳥獣対策に協力しています。その一つとして、センサーカメラ調査を行っていて、今回はその途中経過を紹介します。

地区内には10台のカメラを設置していて、今回集計した期間は令和5年1月21日から6月15日までです。撮影頭数は、イノシシが最も多く、次いでニホンノウサギ、タヌキ、ニホンザル、カモシカ、ニホンリスでした。哺乳類としては、その他にアライグマ、ハクビシン、アナグマなどの15種が撮影され、数は少ないですが、ニホンジカも撮影されました。

このように、調査により、被害を出す動物の出没状況が分かります。また、対策と調査を同時に行うことで、対策により動物の出没を減らすことができたかなど、効果的に対策を進めるために必要な情報を得ることができます。今後も調査を続けますので、撮れる動物がどう変わっていくか、またご報告します。



カメラがとらえた動物達



(上段右)ニホンノウサギ (下段右)カモシカ
(上段左)ニホンザル (下段左)ニホンジカ



イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する鉄谷さんからのお知らせです。

福島県避難地域鳥獣対策支援員

鉄谷 龍之 さん

平成31年4月から同支援員。令和3年から飯館村の鳥獣対策に携わり、今年度から村の主担当。専門は野生動物管理・鳥獣被害防除。

飯桶陣屋

相馬藩の出先機関

歴史の散歩道

飯館村は江戸時代を通じて相馬藩に属していました。相馬藩の陣屋代官制度は、明暦年間(1655年から1658年)に始まり、「郷」の再設定により山中郷などが設置された元禄10年(1697年)に完成しました。山中郷には30村が属し、その中心として「陣屋」が置かれたと考えられています。正式に陣屋が置かれたことで、それまで定期的に藩から出張していた代官が、陣屋常駐めになりました。

の町や村に居住していた藩士が武術の訓練をした道場、学問所である庶政務、防犯を担う番屋、さらには牢屋などもありました。本村を通る「奥州西海道」は「塩の道」とも呼ばれています。村内には「八木沢宿」「飯桶宿」の2つの宿場があり、飯桶陣屋は飯桶宿に置かれました。当地は、現在の飯桶町地区に当たります。明治期に復元された幕末の地図(右下の図)には、現存する善應寺が書き込まれていて、陣屋などのおよその位置関係が見てとれます。現在、陣屋の遺構は何も残っていませんが、塩の道を目印に、現在の風景の中にも当時の面影を感じることができます。



陣屋が置かれていた場所に「飯桶宿 山中郷陣屋跡」の碑と説明の看板が建てられています。



村史第1巻「通史」より「幕末の飯桶」。明治期の字限図を元に村民の談話を加味して復元されたもの。

おすすめ図書を紹介します

夏にぴったりのレシピが満載!

「クックパッドの夏レシピ 最新版」
出版社・宝島社



夏野菜をたっぷり楽しめる1冊をご紹介します。夏の殿堂入りレシピや15分以内で完成できる夏の食材もたくさんレシピ、冷たい麺レシピなど、これを読めば暑い夏でも夏野菜のおいしさを楽しみながら過ごせるはず。夏野菜は、水分やカリウムなどを豊富に含んでいるので、身体のクールダウンに最適!! 作ったことのない料理にも挑戦してみよう。



交流センターではさまざまなジャンルの書籍・雑誌・絵本を貸し出しています。ぜひご利用ください。

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。



ワクワクが目白押し! 夏真っ盛りの飯館を楽しもう



第12回

杉岡 誠 村長の 愛楽故郷味 あいらくふるさとみ

8月は村産品が一層輝く月です。
また、5日は「いいたてアカペラビレッジ」「ナイター駅伝」、6日は「いいたて夏まつり」、12日は「道の駅6周年」、14日前後は各地区の納涼まつり。27日は「いいたてスーパーカーフェスティバル」など、ふるさとの担い手の皆さまが創意工夫した多くの催しがあります。
私自身も子ども時代、村での8月の思い出が一番色濃く残っています。
夏真っ盛り。お花もお野菜も最盛期を迎えます。目で見て、味わう飯館村。ワクワクが目白押しの8月を楽しみましょう!

沿線の5つの自治体と住民による新たな連携が始まった「あぶくまロマンチック街道」の取り組みでは、国道の改良要請のほか、持ち回りでのイベントも企画していきます。また「日本で最も美しい村」連合に加盟する福島県内4町村合同物産展が今年も昭和村で開催されましたが、再来年、令和7年はいよいよ飯館村が会場となります。この他、ふくしま田園中枢都市圏9市町村による共催スポーツ行事なども企画中です。今から楽しみですね。

また15市町村による「昆虫の聖地協議会」の結成と前後し、村にもカブトムシ養殖・販売を手掛けたことへの企業進出のお話があったり、大倉・佐須地区で冬虫夏草の新種のほか多品種が発見されるなど、村の豊かな自然環境を生かした取り組みの種が芽吹きを待っているようです。

村民の皆さまがお住まいの自治体をはじめとする広域連携を深める取り組みは、村の交流人口を増やすことにも、企業誘致にも、災害など非常時の連携や国県への要請活動の強化にも繋がります。今後も機に臨み変に対応する取り組みに努めて参ります。

暑中お見舞い申し上げます。
7月はワクワクの輪を広げる「村の将来への布石」に注力した月でした。

■ひとのうごき

おくやみ

氏名	年齢	行政区
市沢 久子さん	88	深谷
高橋 キミ子さん	87	前田・八和木
庄司 二郎さん	90	深谷
清水 アイ子さん	88	長泥
星 みつ子さん	64	上飯樋
廣野 トヨ子さん	89	上飯樋
嘉藤 京子さん	72	白石
原田 安男さん	92	蕨平
佐藤 シケさん	93	飯樋町

ご冥福をお祈り申し上げます

(6月21日から7月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。



彩雲 赤・黄・緑などの多色に彩られた雲で古くから吉兆とされています。7月上旬、深谷地区にて。大井利裕さん(草野)撮影。

ひとのうごき 令和5年6月30日現在

人口	今月 (前月比)	6月1日~30日までの人口動態
●男	2,385人(-6)	転入 4人
●女	2,360人(-7)	転出 9人
計	4,745人(-13)	出生 1人
世帯数	1,807戸(-1)	死亡 9人
		(住民基本台帳人口)

飯館村地域おこし協力隊がつづる いいたて DIARY

みなさんこんにちは!
松尾洋輝です!

もうすっかり暑くなり、アイスコーヒーが美味しい季節ですね!

ここ最近、夏に向けての新ドリンク開発をみんなで行っていました!飯館村にある実際の場所をイメージして作ったドリンクが新たに4種類出来ましたので、ぜひ飲みいらしてくださいね!

あ、それと図図倉庫の外観に夜に光る看板もできましたよ!!(夜は赤く光ってます)

また、これからWEBデザインの勉強も始める予定でして、その技術を、HP制作やECサイト制作等に役立てていくつもりです!

協力隊もあと5か月となりました。あっという間ですが、これからも頑張っていきます! それでは、また!

今月のライター

地域おこし協力隊 松尾洋輝 さん

村民広報委員
ふじおさんの
いいたて 宝さがし

第13回 ♪響く太鼓音♪

—とうとう夏です!—
お盆です。ご先祖様を迎える盆踊りの季節です。今回は、その盆踊りを支え、やぐらの上で勇ましく太鼓を叩く志賀清一さん・ひろ子さん夫婦(上飯樋)を紹介します。

志賀さん夫婦は震災前から毎年、仲間達7人で笛や小太鼓、鐘や歌で老人ホームなどに出向き、ホームの皆さんと共に楽しんでいるそうです。飯樋四区の豊年盆踊り大会にも参加していただき、盛り上げていただいています。(そういえば昔、子ども達が盆踊りの日の夕方にリヤカーに太鼓を積んで、飯樋四区の町を、太鼓を叩きながら回っていた記憶があります。)

志賀さん夫婦は現在保原に住み、仕事の傍ら飯館に帰ったり趣味の庭いじりをしたりと、充実した日々を過ごしているそうです。ただ、太鼓や笛などを継承してくれる人が少なくなり、若い人たちにぜひ参加してほしいと強く願っています。

新築の家での3人の笑顔の写真は、本当に宝物ですね。

新加工場・新店情報

飯館の味わい
新たな魅力

飯館村の「食」の魅力を広げてくれる加工場と精肉店がそれぞれオープンしました。

避難先に拠点を移し、村の食材を生かした加工食品をつくり続けてきた渡邊とみ子さん（前田・八和木）の『までい工房美彩恋人』。平成30年に亡くなった夫・福男さんと共に目指した村内加工場のオープンを、この6月に実現しました。新たな加工場で、郷土色豊かなお弁当の注文販売を始めています。

一方、畜産家の山田豊さん（関根・松塚）は、開店準備を進めてきた精肉店で、いよいよ牛肉の販売をスタートしました。今後も販売方法などを更新しながらお店のよりよいスタイルをつくっていきます。生産から販売までを手がけ「お肉のおいしさ」に改めて気づかせてくれる精肉店。村の畜産に彩りをもたらす期待の新店です。

山田豊さんの精肉店
肉のゆーとぴあ

精肉店の技術で処理した切りたてお肉のおいしさを

2日前までを目安に注文を。店頭受け取りか配達かを選べます。

注文は電話かFAXで。現在準備中のホームページからも注文できるようになる予定。

電話 090-2993-6062 FAX 0244-26-4179
住所 飯館村松塚字松塚 65



予約した時間に店頭で受け取ることが出来ます。切りたて挽きたてのお肉は竹の皮に包まれています。

予算や人数、用途に合わせた内容で、少量から購入が可能です。在庫状況にもよるので、余裕を持って注文を。

新加工場をオープン
までい工房美彩恋人

旬の野菜をふんだんに使った郷土食と手料理の数々を

注文は1週間前までを目安に。内容は予算や人数に合わせて相談できます。

注文は電話・FAX・メールで。数量はできれば15個程度から（応相談）。

電話 /FAX 024-597-6059

✉ watanabe.tomiko@rainbow.plala.or.jp



この日は「宿泊体験館きこり」のホールに配達。飯館の食の魅力がぎゅっしり、宝箱のようなお弁当です。

お弁当にはお品書きと手紙が添えられています。野菜を無駄なく丸ごといただくレシピにも注目！

〈編集後記〉
はやま湖の花火を初めて観ました。圧巻でした。感動しました。響きわたる花火の重低音、名物「水中花火」が披露された時の歓声、その裏には朝から夜まで働く関係者の方々：なんだかじんときるものがありました。集まった皆さんの笑顔がこの先も見られますように。（菅野）
さまざまイベントが以前と同じように開催されているこの夏。「よかったら来てね」「写真を持って来たよ」と広報にたくさん情報を見せていただきました。村民の皆さんと一緒に紙面をつくっていることを改めて実感した8月号。今年の夏は暑くて熱いです！（星）

Native Speakers
ネイティブ・スピーカーズ
飯館言葉の達人たち 25

とんぼぐちで待ってて

飯館村 YouTube